

ニュース JAFIC EYE №191

2020年10～12月の主要魚種の水揚量と市況動向

JAFICが調査している全国主要107港における2020年10～12月の調査対象全魚種の累計水揚量は54万5千トンで、前年同期(55万5千トン)の98%であった。1～12月の累計水揚量は196万3千トンで、前年同期(198万3千トン)の99%であった。10～12月の平均価格は226円/kgで、前年同期(220円/kg)の103%であった。1～12月の平均価格は191円/kgで、前年同期(202円/kg)の95%であった(表1)。

表1. 全国の1～12月の水揚量(t)と平均価格(円/kg)

月	2020年		2019年		前年対比	
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格
1	111,306.9	221	152,599.5	203	73%	109%
2	154,341.7	177	140,133.8	208	110%	85%
3	174,481.7	143	173,913.9	160	100%	89%
4	152,067.1	150	175,348.5	169	87%	89%
5	173,278.9	165	187,955.5	163	92%	101%
6	160,132.4	179	138,095.6	204	116%	88%
7	179,170.0	154	149,746.4	216	120%	71%
8	121,567.9	195	111,340.4	234	109%	83%
9	192,135.5	224	199,142.9	217	96%	103%
10	243,832.5	213	246,409.0	196	99%	109%
11	141,652.0	256	145,325.5	259	97%	99%
12	159,677.9	220	163,801.4	221	97%	100%
合計	1,963,644.5	191	1,983,812.4	202	99%	95%
10～12月	545,162.4	226	555,535.9	220	98%	103%

(以降出典：おさかなひろば (JAFIC))

主要47魚種の10～12月の魚種別の累計水揚量と平均価格を前年同期と比較した(表2、図1)。水揚量は、マアジ、生鮮カツオ、生鮮スルメイカなど19魚種が前年同期を上回り、カタクチイワシ、ヤリイカなど7魚種が前年同期並み、マイワシ、さば類、サンマなど21魚種が前年同

期を下回った。平均価格は、さば類、かれい類、サンマなど13魚種が前年同期を上回り、マイワシ、冷凍メバチなど7魚種が前年同期並み、マアジ、生鮮カツオ、養殖マダライなど27魚種が前年同期を下回った。

平均価格が前年同期を下回った魚種が多く、1,000円/kg以上の高価格魚に注目すると、前年同期から価格を下げたのは、キンメダイやトラフグなど7魚種であった。そのうち養殖ヒラメ、うに類の2魚種が、水揚量が減少したにもかかわらず価格を下げた。

第1回目の新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発令され、外出の自粛要請や飲食店の営業時間の制限が続いた4～6月と比べると、前年同期から水揚量が減少したにもかかわらず、価格を下げた魚種は16魚種から6魚種に減少し、1,000円/kg以上の高価格魚では、9魚種から2魚種に減少した。

表2. 2020年10～12月の産地魚種別水揚量(トン)と平均価格(円/kg)。(2019年1～12月の平均価格の昇順に並べ、1,000円/kg以上の魚種を赤字で示した。)

	10～12月						1～12月
	2020年		2019年		対前年同月比		2019年
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	価格
マイワシ	120,206.8	41	134,146.7	40	90%	101%	41
ニシン	654.0	43	2,832.0	41	23%	105%	52
スケトウダラ	18,628.0	57	13,944.3	65	134%	87%	58
カタクチイワシ	2,579.6	40	2,620.0	76	98%	52%	58
ウルメイワシ	11,011.3	55	9,453.6	88	116%	62%	76
ホッケ	7,104.6	61	5,062.7	48	140%	126%	81
さば類	113,475.4	131	125,938.2	110	90%	119%	105
ほたてがい殻付	21,673.0	90	21,865.3	153	99%	59%	158
冷カツオ	52,756.9	183	39,814.6	169	133%	108%	171
マダラ	9,016.8	268	8,362.7	286	108%	94%	227
マアジ	16,264.8	225	11,221.1	269	145%	84%	230
ブリ	13,796.9	196	16,627.7	254	83%	77%	251
生カツオ	5,110.8	318	3,668.6	455	139%	70%	306
冷キハダ	10,258.7	266	17,726.9	250	58%	106%	311
かれい類	3,221.0	332	3,728.8	313	86%	106%	313
サンマ	27,287.2	446	35,992.6	283	76%	158%	317
ヒラマサ	508.2	370	403.1	474	126%	78%	472
ピンナガ	3,318.7	375	2,224.0	522	149%	72%	478
さわら類	796.4	502	1,273.5	526	63%	95%	530
マカジキ	240.5	554	223.6	626	108%	89%	562
たこ類	2,529.1	583	2,143.3	590	118%	99%	570
生スルメイカ	10,972.4	623	10,045.4	767	109%	81%	645
サザエ	103.4	723	125.3	687	83%	105%	671
マダイ(天然)	726.8	566	825.7	725	88%	78%	724
ヤリイカ	1,305.4	570	1,323.3	638	99%	89%	732
生キハダ	9,062.0	328	2,049.1	770	442%	43%	750
メジマダ(ヨコフ)	132.0	678	180.6	786	73%	86%	753
あなご類	291.5	685	344.3	651	85%	105%	756
ハマチ(養殖)	62.1	751	97.6	689	64%	109%	781
冷メバチ	5,176.4	754	5,929.0	780	87%	97%	812
冷スルメイカ	2,871.4	715	1,189.3	1,130	241%	63%	886
マダイ(養殖)	142.0	620	87.0	833	163%	74%	910
ヒラメ(天然)	408.9	811	338.6	1,104	121%	73%	983
アカムツ(ノドグロ)	84.7	1,745	122.0	1,131	69%	154%	1,069
メカジキ	1,298.9	795	865.6	1,102	150%	72%	1,095
生メバチ	2,798.1	1,159	3,401.2	1,199	82%	97%	1,131
キンメダイ	414.1	1,611	401.6	1,749	103%	92%	1,657
クロマダ	304.2	2,363	233.7	2,638	130%	90%	1,680
冷ミナマダ	1,079.7	1,686	823.0	1,774	131%	95%	1,738
ヒラメ(養殖)	0.9	1,860	4.0	2,026	23%	92%	1,934
あまだい類	41.8	2,453	43.1	2,551	97%	96%	2,118
キンキ(キチジ)	111.8	3,518	117.7	3,630	95%	97%	2,798
イセエビ	31.9	5,690	33.1	4,683	97%	122%	4,345
クルマエビ	6.3	5,073	15.4	4,305	41%	118%	4,754
トラフグ	22.8	6,126	22.6	6,475	101%	95%	5,559
あわび類	8.1	7,912	11.5	8,270	71%	96%	7,690
うに類(剥き身)	13.1	13,003	15.1	14,326	87%	91%	13,312

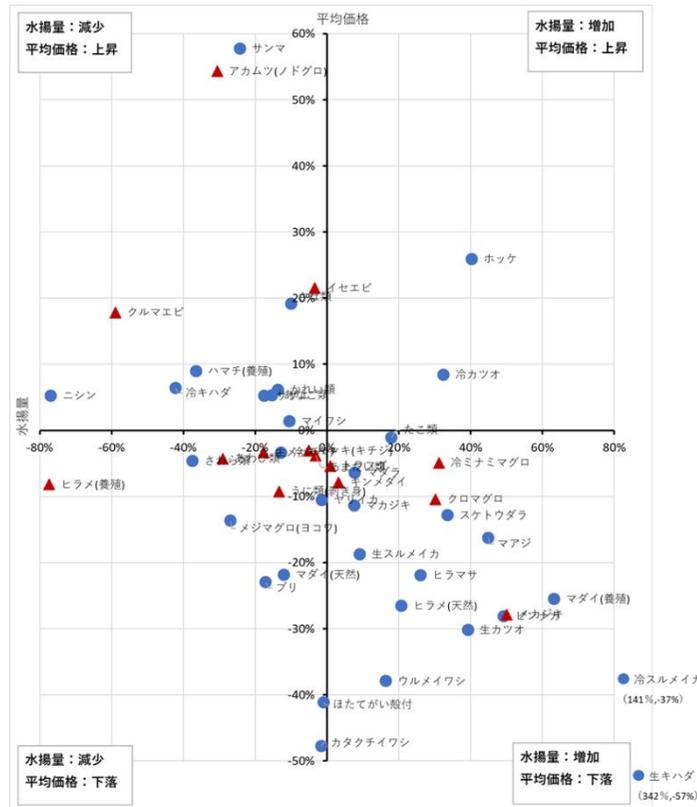


図1. 主要 47 魚種の水揚量と平均価格の比較 (2020 年 10~12 月/2019 年 10~12 月)。横軸と縦軸の目盛に記載した%は、前年同期比の増減率を示す。▲は 2019 年 1~12 月の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。目盛の範囲外にある冷スルメイカ、生キハダについては、水揚量と価格の増減率をカッコ内に示す。

代表的な魚種の産地市場における動向は、次のとおりである。

1) キンメダイ

10 月の平均価格は 1,698 円/kg、11 月は 1,450 円/kg で前年をやや下回ったものの、12 月は 1,739 円/kg まで回復し、前年同期並みであった。1~12 月の累計水揚量は 1 千 600 トン

ンで前年(1 千 700 トン)の 96%であったものの、平均価格は 1,739 円/kg で前年(1,657 円/kg)の 88%と弱含みであった。2 月を除き年間を通して前年を下回る価格で推移した。

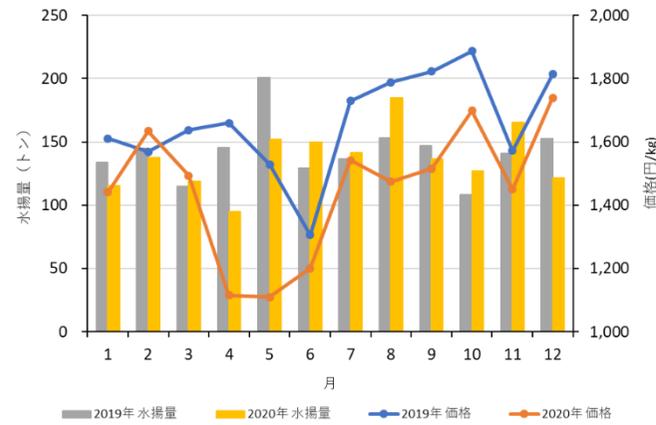


図 2. キンメダイの水揚量と価格の推移

2) 養殖マダイ

562 円/kg であった 10 月から、11~12 月は 600 円/kg 台まで回復したものの、新型コロナウイルス流行による業務向けの需要減少の影響で、年間を通して前年を大きく下回る価格で推移した。相場安のため量販店での売れ行きは好調であった。

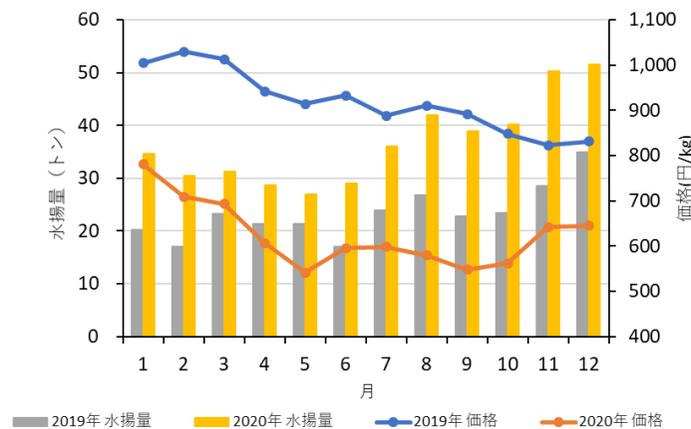


図 3. 養殖マダイの水揚量と価格の推移

東京都中央卸売市場(豊洲市場)における取扱数量と平均価格を図 4 に示した。10 月と 11 月の数量は、共に 1 万 8 千トンで前年並み、12 月は 2 万 1 千トンで前月を上回ったものの前年をやや下回った。1~12 月の累計数量は 21 万 5 千トンで前年同期(22 万 4 千トン)の 96%であった。平均価格は、10 月が 1,173 円/kg で前年並みであったものの、新型コロナウイルスの感染者が増加した 11 月は 1,204 円/kg で前年をやや下回る価格となった。12 月は 1,429 円/kg で前年並みであった。1~12 月の平均価格は 1,146 円/kg で、前年同期(1,252 円/kg)の 92%であり、1 年を通して前年を下回る価格で推移した。

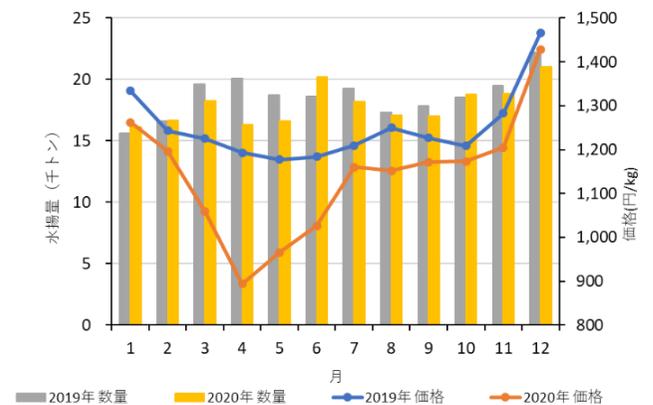


図 4. 東京都中央卸売市場における全魚種の取扱数量と価格の推移

10~12 月は、10 月に Go To キャンペーンで飲食店の利用が増えたこともあり、4~6 月と比べると価格を持ち直したものの、11 月以降再び新型コロナウイルスの感染者が増加したことから、1,000 円/kg 以上の高価格魚を中心にコロナ禍による需要減少の影響が見られた。

(水産情報部)